

ひめゆり 通信

第148号

2016年10月15日号

<http://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

主な目次

● 巻頭言	1
● 平成28年度 法人主任研修(第1回)	2
● 法人ピックアップ平成28年度発達障害講演会 発達障害の理解と支援	4
● 熊本震災支援	5
● いこま乳児院職員宿舎改修工事報告	7
● リニューアル桃李館	7
● 愛染寮 平成28年度 海への里帰り報告 特別な海里!	8
● 高齢者施設より	10
● 児童施設より	14
● 各施設のボランティアさん紹介	20
● 自治活動と宝山寺福祉事業団とのつながり	21
● 楽ラクひめゆりジム・「ひめゆり講座」好評開催中!!	22
● 第20回宝山寺福祉事業団職員研究発表会お知らせ	23
● 愛染寮70周年記念事業 奉納太鼓開催お知らせ	24

「熊本大会で」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

九月十三日から三日間にわたって熊本市で開催された全国社会福祉法人経営者協議会の協議員総会と法人の理事長や管理職を対象に開催された全国大会に参加した。社会福祉法が改正され、社会福祉法人制度の大きな改革が進んでいる最中の会議、研修会であるから参加者の熱気が伝わってくる大会であった。

熊本城が気になり、昼休みのわずかな時間を利用して近くまで行ってみたが、四月の地震の惨状は今もなお大きな傷痕をさらしたままであった。立入禁止のロープと警備員が城内に入ることを拒んでいるその先には大きく崩れた石垣や櫓屋根瓦がなくなってしまうた天守閣など胸の痛む光景がそこにあった。

ところで、会議や研修の後の交流会で隣り合ったのが古い歴史を誇る有名な東京の児童養護施設の施設長で法人の常務理事をしておられる方であった。杯を重ねるにつれ、最近の児童養護施設や乳児院といった社会的養護を必要とする子ども達に関する話題で盛り上がった。曰く、福祉施設が抱える光と影というところであろうか。国が進める施設の小規模化、家庭的養育環境とは、脱施設や里親制度

の抱える問題などに話は及び尽きる事がなかった。

私自身は、今年七十周年を迎えた愛染寮が出来た翌年の生まれである。母が産で実家に戻って一段落して寮に帰ってからずーっと愛染寮で育った。食事は食堂で皆と一緒に食べるのが常であったし、小学二年生で元興寺に引越した後も愛染寮のサテライト施設として誕生した元興寺南都寮の高校生や姉ちゃんと一緒に生活だった。食事はもちろん食堂で一緒であったし、かなり長い間似たような年頃の兄ちゃんと同じ部屋で生活していた。子ども達の間では、寮長夫妻の長男だからと多少の遠慮や気遣いもあったのかもしれないが私自身には特別ちやほやされたこともいじめられたという記憶もない。

物質的に贅沢な生活ではなかったし、ある意味では同年代の町の子どものような種の豊かさを羨ましく思ったこともあったが、貧困な家で育っているという感覚はなかった。寮には大勢の子どもと一緒に暮らしていたが、楽しきわが家という気風がみなぎっていた。まさしく大家族そのものであった。

五十年も、六十年も前の昔話を持ち出してきても時代はすっかり変わっているといわれるであろうが、「こどもの最善の利益」という原理にもとづいて愛染寮やいこま乳児院の子ども達の養育環境を考えると、単に外形的なサイズの問題でもない、また原理主義的な親子関係論でも片付かない根源的な施設の課題として、今ここにいる子ども達にどのようにして愛情を降り注ぎ、限られた条件の中で支えていくことができるのかという現場の課題が昔ながらに蘇ってくる。

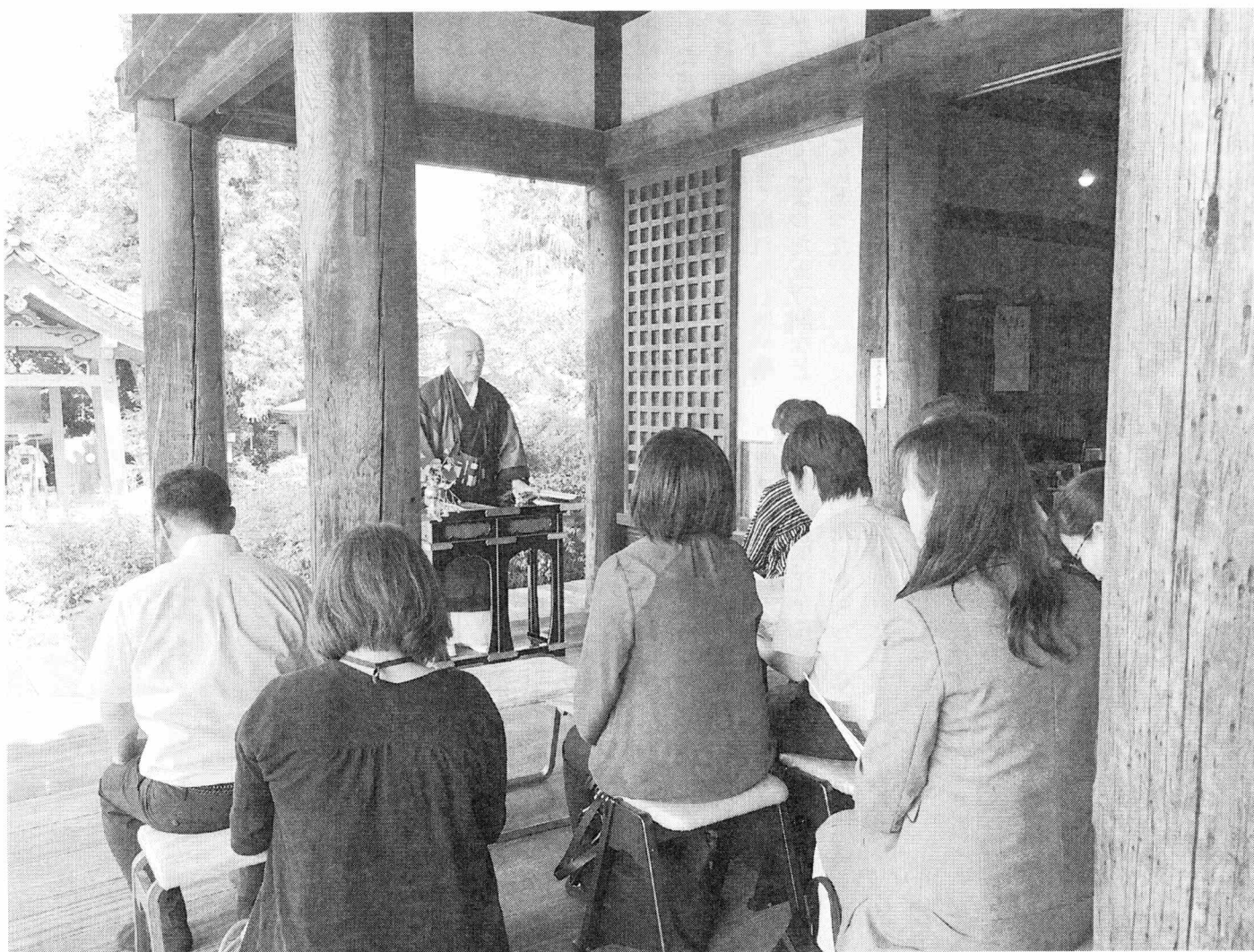
乳児院の子どもは皆発達障害を起す、施設の子どもの殆どは問題児だなどという、偏見に満ちたわけのわからぬ意見などさらさら相手にするつもりはないが、施設がユートピアであるとは言わない。色んな面で限界も抱えているだろう。それでも愛染寮や乳児院がこれまで取り組んできた歴史を私は是としたい、そしてこれからもその限界を少しでも広げるよう歩んでくれることを現場の職員に期待している。慌ただしく飛び乗った新幹線でも、昔と今が交錯するまどろみの中で帰途についたことだった。



平成28年度 法人主任研修

第1回 2016.9.9(金)

法人内で主任を目指す職員のために、主任研修を隔年で実施しています。今年度はその年に当たり、9月から11月にかけて3回シリーズで開催することになりました。今回のテーマは、「メンタルケアやりがいのある仕事を長く続けられる職場であるために―」で、職場のメンタルケアを中心としながら、管理的立場にある者に求められることについて学ぶ予定です。先日、第1回の研修を行いましたので、その様子について報告します。



仏教探訪

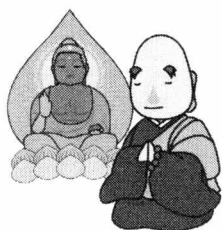
**興法利生の
実践に尽くした
叡尊上人・忍性上人の
足跡をたどって**

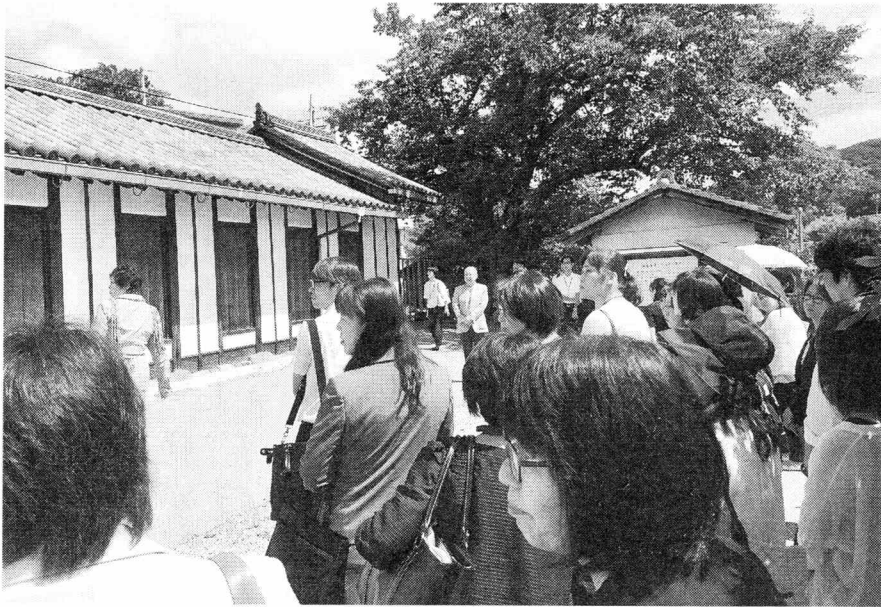
宝山寺福祉事業団の母体である宝山寺、真言律宗の宗祖である興正菩薩叡尊上人や、その弟子の忍性菩薩にゆかりのある般若寺を訪れました。

本堂では、工藤良任ご住職による法話をお聞きしました。来年は忍性菩薩ご生誕800年記念の年に当たり、奈良博での特別展や映画が制作されるなど、注目が高まっています。

忍性菩薩の文殊菩薩への信仰、そして文殊会や勧進を通じた貧しい人や病人に対する救済事業（菩薩行）は、日本の福祉事業の礎であったともいわれています。

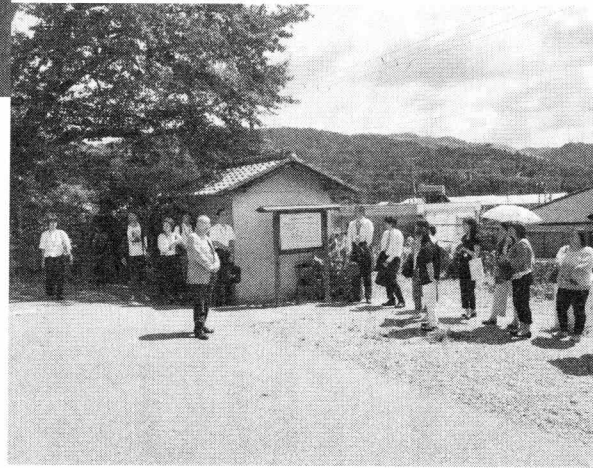
般若寺本堂の縁側に椅子を並べ、さながら青空教室のようでありました。境内に目を向ければ、ちらほらとコスモスも咲き始めており、時折吹き抜ける風に秋の到来を感じました。





続いて、北山十八間戸を訪れました。鎌倉時代にハンセン病などの患者の救済のために建てられたいわば福祉施設です。建物の中も見学させていただき、大きな長屋の中が小さな部屋に区切られている様子も見ることができました。

午後からは、リガール春日野に移動し、理事長から仏教についての講話を聞き、午前中の見学と合わせて、法人理念と仏教福祉についての理解を深めました。



第20回 法人研究発表会プライベート

映画『忍性』上映会 監督：北原北胤、主演：和泉元彌

上映日時：平成29年1月28日（土）

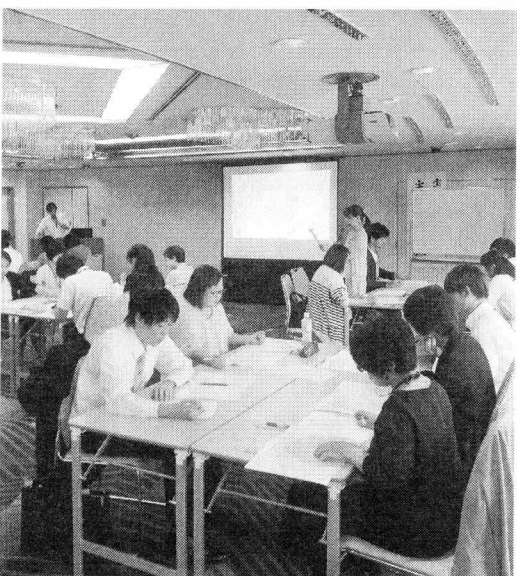
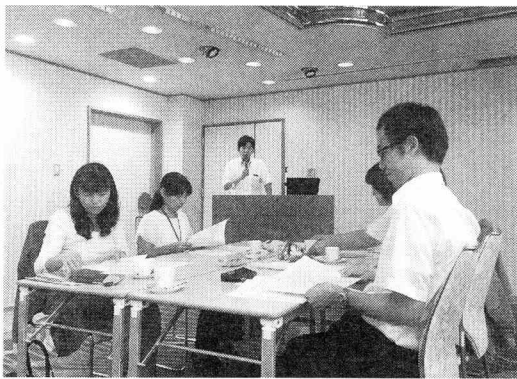
開場18：30 開演19：00 終演21：00

場 所：ならまちセンター 市民ホール

チケット：1000円。

チケット購入ご希望の方は、極楽坊保育園

TEL0742-22-4598（辻村）まで、ご連絡をください。



人事考課

人事考課

— 二次考課者として —

ケアハウスあくなみ苑の田中将史施設長による講義でした。

当法人では、人材育成志向の人事管理のため、人事考課を行っています。

人事考課では、直接の上司が行う一次考課と、さらに上の立場にいる者が行う二次考課、三次考課があり、それぞれ立場によってその意図するところが違ってきます。主任の立場になると、これまでの一次考課から、二次考課あるいは三次考課を行うこととなります。これらの違いをきちんと理解した上で、公正に考課し、それを職員一人一人にフィードバックする役割を担うようになります。

講義では、人事考課についての基本

の確認をチェックテスト形式で行った後、さらに主任としての考課のあり方について、グループワークを交えながら進んでいきました。すでに現場で考課を行っている中での疑問や悩みもあつたようで、受講者たちはみな真剣な表情で取り組んでいました。

研修終了後は、法人内施設長も加わって懇親会を開催し、普段は関わることの少ない他の分野や施設の職員さんたちとの交流を深め、楽しいひと時を過ごしていました。

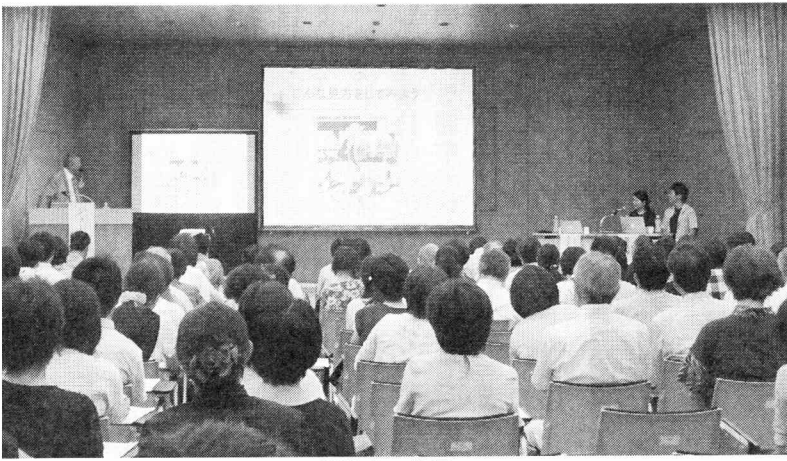


平成28年度発達障害講演会

「発達障害の理解と支援」

奈良県発達障害支援センターでいあい相談員 草間 理恵子

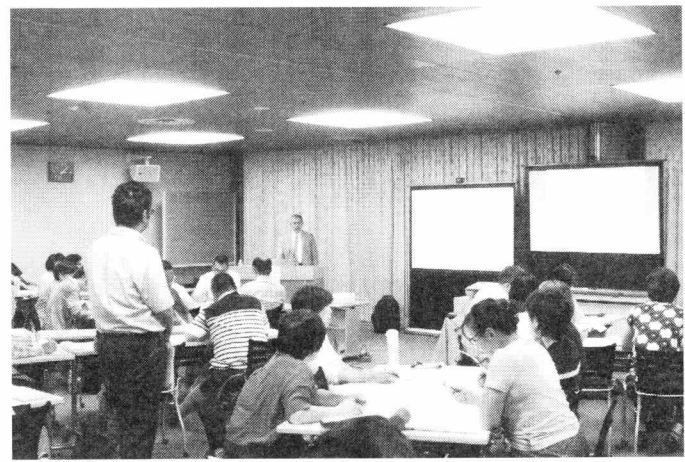
でいあいでは毎年夏に発達障害に関する基礎知識や対応方法等の習得を目的とし、発達障害児・者に関わる支援者・保護者、発達障害に興味や関心のある方を対象に発達障害普及啓発・研修を行っています。今年度は8月6日(土)に「平成28年度発達障害講演会」を開催し、「発達障害の理解と支援」と題して、午前中に講演会、午後からは分科会を行いました。今回、畿央大学の太久保賢一先生のご紹介でフリティッシュ・コロンビア大学のジョー・リシユン先生を講師としてお迎えしました。でいあいが開所して十年目の今年、初めて外国人講師をお招きしての講演会となりました。



講演会の様子

講演会では「自閉症や発達障害のある子どもを持つ家族に対する支援——ポジティブな行動支援(PBS)の基礎と応用——」と題し、ジョー先生のPBSに関する研究、知見、臨床など豊富なご経験を事例を用いてお話頂きました。

分科会Ⅰでは『PBS「家族支援」ワークショップ「家庭における行動支援計画を実際に作ってみよう」』と題して、架空事例を用いてアセスメントを行い、支援計画を作成しました。当日は認定行動分析士の資格を持ちカナダで自閉症支援に携わっている館真理子先生に翻訳、畿央大学の太久保先生にはコー



分科会Iワークショップの様子

※PBS (Positive Behavior Supports: 積極的行動支援)
単に問題行動を抑えるのではなく、周囲の関わりにより子どもに問題を起させない環境作りの方法や子どもに必要な行動の身につけ方に重点を置いた考え方です。

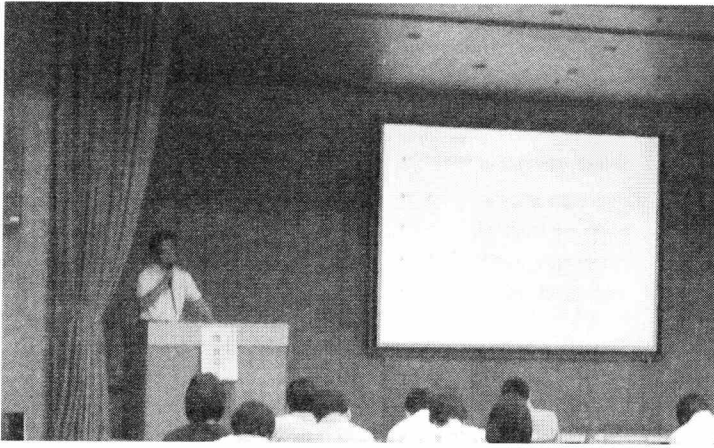
ダイネーターとしてご協力頂きました。

分科会Ⅱでは「合理的配慮の実施に向けて」と題し、合理的配慮について実際の教育や就労支援の現場でご活躍されている先生方にご講演頂きました。今年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」は、障害のある人に対する「不平等な差別的取り扱い」の禁止、「合理的配慮の提供」により、障害のある人もない人も共に暮らせる社会づくりを目指しています。

奈良県でもこの内容の条例が施行されています。そのため、前半は文部科学省の田中裕一調査官より「学校教育現場で活かす合理的配慮」について、学校教育法を踏まえながら生徒に関わる際に必要な支援・指示のポイントを具体的にご説明頂きました。また後半には就労の場から就労移行支援事業所株式会社エンカレッジの窪貴志先生より、発達障害のある方が就労に必要な力を身につけるための事業所での取り組みや事例紹介、就労の場面での合理的配慮についてお話頂きました。差別解消法については施行されてから日が浅いこともあり、様々な所で事例等を調査・検討段階ですが、先生方から

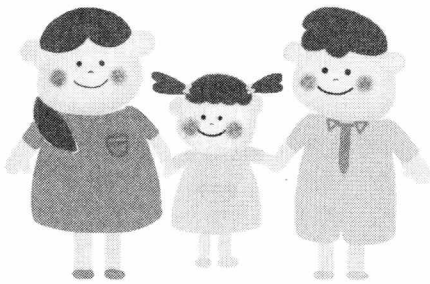
現場の様子をお聞きした事で法律内容と支援における具体例をより深く理解出来ました。

今回は発達障害のある子どもへの関わり方を中心に、制度や、その後の就労に関して幅広く学べる内容になったと感じています。中でもジョー先生の『私は支援者が家族に「してあげている」といった支援者本位で意見を言う関係性ではなく、家族が子どもと一緒に生活するために力をつけるために支援者のお手伝いをしたい』の言葉が印象的でした。家族が支援者に依存している関



係ではなく、家族が主体的に本人に関わり生活していくために、支援者が伴走者として支援していくことが大切であると再認識されました。今後、家族中で子どもがよりよい生活を実現するためにライフステージを踏まえた関わりが大切だと感じています。

でいあーでは本講演会以外にも様々な形で普及・啓発活動を行なっていますが、県内での発達障害への理解や環境づくりは未だ道半ばの状況です。発達障害で悩んでいる当事者・家族・支援者が生活の質の向上に繋がるよう、今後も様々なテーマでより多くの方々に発達障害の普及・啓発活動を進めていきたいと思っています。



熊本震災支援

養護老人ホーム梅寿荘 介護職員 小林直人

この度は全国老人福祉協議会からの熊本地震に係る介護職員の応援依頼を受けまして、平成28年7月22日～8月1日の11日間、熊本県上益城郡御船町にある養護老人ホームオアシスに応援派遣に行かせていただきました。熊本地震の発生日が2016年4月16日です。

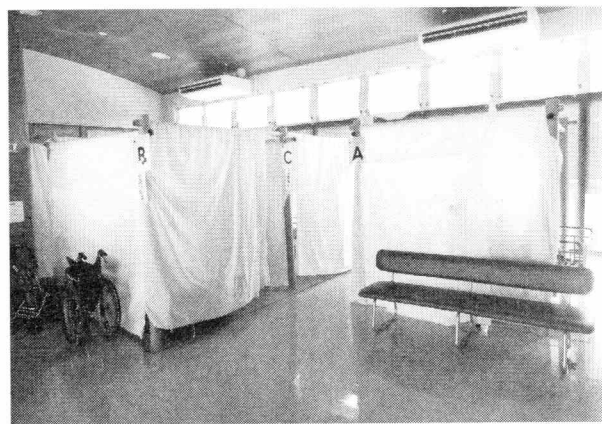
震災から約3ヶ月が経ちますが、熊本駅から派遣先施設に向かうまでの車窓からの風景はブルーシートで覆われた瓦屋根の民家、あちこちに建てられた仮設住宅、アスファルトが剥がれたデコボコの国道。どれも震災直後だと思われるものばかりで、熊本の町は復興とは程遠いものでした。



益城町の様子

派遣先施設のオアシスは被害の一番大きかった益城町の隣町にありました。震災直後に御船町から福祉避難所に指定され、2階の集会所のスペースには今回の震災で家族や家を失われた4名の被災者の方が避難され生活されていました。7名の被災者が居られたようですが、仮設住宅に空きが出た移られたと伺いました。

また、働かれていた職員の中にも家が全壊された方や怪我をされ入院された方などで4名が離職されたそ



福祉避難所



屋根の落ちた木山神宮

うです。現況は4名の職員と2名のパートスタッフが働かれており、夜勤も1人で月8〜10日され休みも十分に取れず、日勤帯の業務を回すのが精一杯の状況です。その様な状況に伴い、福祉避難所で働いているのはボランティアスタッフのみで、私が応援に行った際も、同じく震災のあった兵庫県や宮城県から応援に來られている4名のボランティアの方達がいまいました。

私は、最初の1日目だけ福祉避難所の業務で、残りの10日は1階の養護老人ホームでの業務でした。ボランティアスタッフも実際に震災を経験された方達だったので、昼夜問わず避難された被災者の支援に必死で

対応されていきました。過酷な労働条件の中で疲労が蓄積されていたにも関わらず、「入居者の方達を自分達が守っていかねければ誰が守るの」と職員の方が言われれば、ご入居者や被災者の方も「家族以上に自分達のことを大事にしてくれている。自分達で出来ることだけじゃなく、職員さんを助けてあげないと」と話されていました。言葉だけじゃなく、実際に働かせていただいく中で互いを思いやる気持ちが痛いほど伝わってきました。職員が足りない状況下では、1日、1日を終わるのがやっとなりで無我夢中でした。そんな慌ただしい中でも、皆さんと笑顔になって楽しめたことがありました。

熊本に出発する前に梅寿荘の松岡施設長にある指示を受けたのです。「熊本の方達に少しでも喜んでもらえる事は何か？そうだと、タコ焼きを焼いて来てあげて」。ソースやタコ焼き粉などを出発前に購入し、関西の味を届けてあげようと熊本に向かうスーツケースの中身はタコ焼きの具材や機材で一杯でした。また、私の頭の中もタコ焼きを上手に焼くことで実は一杯だったので。職員さんの手が多い日に、おやつの時間に厨房を借りてタコ焼きを提供させていただきました。ご利用者が50名だったので、1人3個と計算して職員さんの分も合わせ200個焼きましたが、数が全然足りず近くのスーパーに買い出しに行き合計で500個近く焼きました。紅生姜や青ネギの入ったタコ焼きは熊本では珍しいみたいで、皆さんに「美味しい」と笑顔になって言っていたので、自分の役目が1つ果たせたといい気持ち少し楽になりました。熊本ではタコ焼きに「たくあん」を入れるそうです。

タコ焼き作り



最終日、お別れの挨拶をする時、何人かのご利用者の目に光るものがありました。またその姿を見て私も涙しました。涙を流してくださったのは短い時間ではありましたが、苦しい時を一緒に共有し過ごせたからだと思います。大切な家族や住み慣れた家を失った方もおられ、当たり前であった生活を奪われて心の中は傷ついていたことでしょう。それにも関わらず優しく接してくださいました被災者の方や職員の方々の「笑顔」、「涙」は私の心に深く刻まれ、生涯忘れることはできません。焼いたタコ焼きの中には皆さんの笑顔が詰まっております。味になりませんでした。

最後に、このような機会を与えて頂いた法人に、温かく送り出してくれた職場の皆さんに、心からお礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

いこま乳児院 職員宿舎改修工事報告

いこま乳児院院長 辻村万里子

昭和60年に3階建て職員宿舎として建設された建物は、近年は職員宿舎としては空室となり、1階は小規模グループケアとして、2階は子育て支援室、3階は実習生等として活用するようになりました。

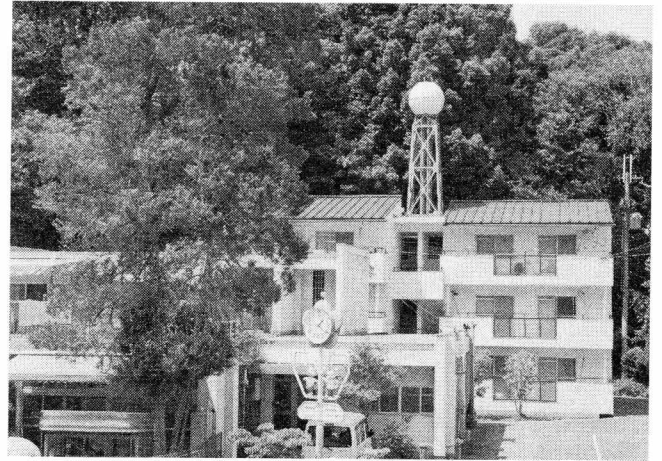
この度、経年劣化に伴う屋根と外壁改修工事を機に、乳児院としては消防法でスプリンクラーの設置が義務付けられたこともあり、1階と2階の計3部屋に簡易型のスプリンクラーを設置しました。これで子どもたちを安心してお泊り出来るように整備出来ました。

また、1階部分に開放型の物置スペースがありましたが、扉を付けて防災用の備蓄倉庫として活用できるようにしました。東北大震災、熊本の震災と大きな震災が続いています。

危機管理することも私達の大切な仕事です。何もかも十分に備蓄することは難しいかもしれませんが、特

に乳幼児の為に必要な物品を整えて、いざという時には地域支援にも役立てられるよう準備をしていきたいと考えています。無事に改修工事を完了し、また新しい役割を担えるように再生できたことをご報告いたします。

工 期 平成28年5月7日～7月末日
施工費総額 約2,600万円



乳児院職員宿舎

リニューアル桃李館

梅寿荘デイセンターセンター長 森本 公子

法人本部、高齢者施設の梅寿荘デイセンター、そして子ども達の住居である愛染寮の男子棟として平成2年に建てられた桃李館も長い年月を経て年季が入り、特に雨風をしのいでくれていた屋根の老朽化が目立つようになってきたこともあり、このたび外壁の塗装工事も含めた大掛かりな改修工事を行うことになりました。

この工事の中で一番楽しみにしていたのは建物の顔である玄関に設置されていた庇の取り換えです。本当はとてもおしゃれで素敵な庇なのですが、横幅が狭く、雨の日のご利用者の乗降時など傘を差さなければならぬこともあり、この際大きな庇に変えることになりました。

外壁工事、屋根の葺き替えも着々と進み、いよいよ楽しみにしていた庇の工事が始まりました。見慣れたおしゃれな庇が外され、木枠に波板を打ち付けた仮の庇が設置されました。

しかし、予定日になっても新しい庇はお目見えせず、次の予定日になっても、その次の予定日になっても波板の庇が載ったままでした。業者の方の説明を聞くと少しの寸法間違いがあり調整をしていたためとのことでした。

しかし、待った甲斐がありました。とても立派な白い庇が設置されました。

どんな大雨の日も大きな送迎車がすっぽりと庇に収まり雨粒一つかかりません。

きれいにリニューアルされた建物にもマッチしており重厚感を感じさせる玄関になりました。

どうぞ皆様、桃李館にいらっしゃいましたら、ぜひ真新しい庇を見上げてください。

施工費総額 約29,000万円



before



after

特集

愛染寮 平成28年度 海への里帰り報告

特別な海里!

今年度の海への里帰りは、70周年記念イベントの一つとして、特別な思いを込めて行ってまいりました。



うおおお! 東シナ海に向かって叫ぶ!



早朝の関空集合

◆日時	平成28年8月8日(月) ~ 8月11日(木) 3泊4日
◆行き先	沖縄県宮古島方面
◆宿泊	ホテル共和
◆日程	一日目 関空発、伊良部島散策 二日に分かれアドベンチャーカヤック体験、シュノーケリング、シーサー作り 二日目 パイガマビーチにて終日海水浴 三日目 買い物、関空着、夕食
◆参加者	職員 5名 ボランティア 2名 あすなる会員 7名 小学生 6名 中学生 10名 高校生 1名 計31名

リレーで綴る、宮古島の思い出

感謝! 感激! 感動!

60周年の時、やはり特別な海里として初めて沖縄に行きました。あれから十年：当時小学生であった健ちゃんが高中生として最高学年で参加、思い出話にも花が咲きました。

この度何より嬉しかったのは、前回にも増して、多くの、特に若いあすなる会員さんが参加してくれたことです。

久々に30人を超える大所帯で、大変賑やかな旅でした。皆様方の「ちよつと贅沢な海里」に対するご理解と、快くご支援くださった賜物であり、一同大変感謝しております。

そして息をのむような宮古島ブルーに、ただただ感激と感動です。海中には、ニモ・ドリーらしき魚もはっきり見えました。

十年後も、皆さん是非一緒に行きましようね! 多分まだ元気なはず…。

(末松)

癒しの旅

この度、愛染寮70周年という記念の年に海への里帰りに参加させて頂き、とても楽しませて頂きました。

青い空と青い海に囲まれた宮古島で、きれいな魚達と美味しい食べ物に癒されました。何よりも海に潜ること



シーサーを作りました！個性的ですなあ。

感動の体験旅行
子どもたちとの宮古島への旅行はとても良い思い出となりました。もともと、私自身、海辺が好きなのもありどこまでも綺麗なエメラルドの海に感動し、また同じものを見て感動している子どもたちを見てうれしい

感動の体験旅行

を楽しみにしていたので、マイシュノーケルを持参して海に臨みました。子ども達も心から楽しんでおり、そんな姿を見てとても嬉しく思いました。愛染寮に勤めて十年が経ち、卒業生の子達と一緒に旅行が出来たこともよい思い出になりました。このような機会を下さった皆様に感謝です。
(中野)



透明度抜群の海で、シュノーケリングを満喫！

ひと味違った海里
海里、南の島、卒業生―心ときめく言葉に魅了され、寮を離れて十数年経ちましたが、参加させて頂きました。子ども達のパワーに負けない気合いを入れて臨んだつもりが、やはり気力体力共について行くのが精一杯―そんな子らをまとめていく兄ちゃん姉ちゃん

ひと味違った海里

気持ちがおみ上げてきました。美味しい食事や初めての飛行機、たくさん魚を見つけたシュノーケリング、荒波の中のシーカヤック体験など、子どもたちのワクワク、ドキドキした表情とすごした3泊4日でした。
(濱口)



伊良部大橋を渡れば、そこは大鷲の展望台



(元職員 垣見)

んに、かつての自分の姿を重ねつつも、もう無理と思ってしまう。そして卒業生達がしっかりと自分の道を歩んでくれていることも、私を感嘆させました。こうして、いろんな意味でめまぐるしい四日間でしたが、今回もご寄付くださった皆様、あすなる会の皆様、お声掛けいただいた寮長さん達、子ども達、ありがとうございました。しかし、多分いちばんはしゃいでいたのは他ならぬ私でした！

海里決算報告
いつもにも増してたくさんのご支援、児童・職員一同ここからお礼申し上げます。



地元の料理に舌鼓！！

収入の部

項目	金額
ひめゆり基金からの助成金 (内訳 寄附 1845,310円 繰越金 859,490円)	2,704,800円
あすなる会員負担金 7名分	210,000円
愛染寮会計より	848,192円
合計	3,762,992円

支出の部

科目	内容	金額
基本旅行代金	往復航空賃 + ホテル (朝食付き) 3泊 (大人)	2,220,000円
	〃 (小人)	484,800円
その他事業費	給食費 娯楽費等 その他	1,058,192円
合計		3,762,992円

＊ 梅寿荘在宅介護支援センター

季節を感じて『元町句会』

地域支援室室長 三家 京子

連日30度を超す暑い日が続き「異常ですね！」地域の方との挨拶も、9月半ばを過ぎ、朝夕の涼しさとともに、土手には今年も彼岸花が咲き、季節の巡りが感じられるようになりました。

地域支援室も4年目、サロンに続いて詩吟、書道、俳句、サークル活動も定着し、指導して下さる先生方も、ユーモアを交えながら、笑いの中でひと時をすごしていただいています。昨年6月から開催しました『元町俳句会』は「情景がわかるように、季語が重ならないように」長野先生の教えで皆さん頭をひねり、言葉を考え、熱心に学んでおられます。

最新の作品3句紹介します。

墓洗ふ、人と挨拶交しけり 四朗

何もせぬ 言い訳にする残暑かな 琴映

はだけたる 残暑の胸の薄くあり 眞久

間もなくご近所の庭のフジバカマが咲きます。今年も、珍しい蝶、アサギマダラも飛んでくることでしょう、生駒山をはじめ、俳句の言葉もたくさん見つかります。地域支援室は、開かれたコミュニティーの場として笑顔と、繋がりを大切に、「人」大好きな三家がお待ちしております。



＊ 特養・養護 梅寿荘

お疲れ様でした

特養次長・養護施設長 松岡 利和

上半期、行事が最も盛んな時期がひと段落しました。7月の七夕から夏祭りとお盆。9月は敬老月間にお彼岸と催しが続きました。施設内だけでなく、関連施設や地域の行事が同様に催されるので、ピーク時は「毎週何かがある」という感覚でした。

これらの催しごとを通じて感じることは、有志でお手伝いくださるボランティアさんのありがたさです。我々は福祉の専門家ではありませんが、換言すれば仕事をしているに過ぎません。仕事としてではなく、純粋に「誰かの役に立ちたい」という思いだけで活動されるボランティアの方々にはただただ敬服するばかりです。

さて、梅寿荘では朝食の時間帯にお手伝いして下さるボランティアさんがいらっしゃいました。朝の7時ごろから来所いただき、準備から介

助までいろいろなことを助けていただく活動です。特にその活動時間は毎日のように朝2時間ほど。しかも20年以上にわたって継続していただきました。そんなご活躍をいただいた笹埜さんが、この度、8月に活動を終えられましたので誌面を借りてご報告いたします。長年お疲れ様でした。



感謝状の贈呈

梅寿荘デイセンター

前進

リーダー 桑原 真理

梅寿荘デイセンターのリーダーとなり、もうすぐ1年がたちます。未経験で入職し、たった3年だったこともあり、なかなか自信が持てず悩むことばかりでした。

おもてなし要素がより多く含まれるデイサービスで、介護者の傲慢にならない様、限られた時間の中でご利用者ひとりひとりに寄り添う事の難しさ、私達の振る舞いで雰囲気が変わる事に注目し、身体的なケアだけでなく、もっとご利用者に楽しんでもらいたいと外出、外食、アロママッサージと様々な取り組みを始めました。

企画から実施までの計画、家族への説明、ご利用者の負担額等、様々なハードルがありましたが、やり切った後のご利用者の喜ぶ顔を見ると、やめられない仕事だなとつくづく思います。

アロママッサージでは、マンツーマンで約10分間ゆっくりと穏やかな時間を共有することで新た

なニーズを発見したり、信頼関係を育んだりできているのではないかと思います。

周りの職員が理解しサポートしてくれること、また決して反対せず背中を押してくれるセンター長や主任にも救われています。新たな事にチャレンジする事はリスクも伴いますが、恐れず、時には寄り道しながらも一歩を踏み出していきたいと思っています。



楽しみにしてくれている方がたくさん

特別養護老人ホーム 延寿

委員会・研修の連携から

介護主任 津田 光永

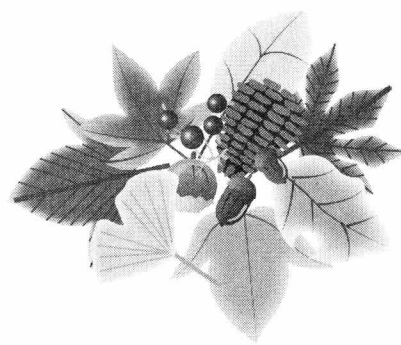
特養では7つの委員会（他部署一部参加）活動を通して、日ごろ見落としがちなケアの改善を進めています。その気付きを担当した委員だけが問題視するのではなく、グループに持ち帰り、職員全体で共感し、時には議論し合うことが大切だと思っています。施設内で毎月行う研修を各委員会が担当し、自分たちの思いの提案の場としても活用しています。

延寿はデイ・ケアハウス・訪問ヘルパー・居宅支援センターを含む総合施設で、各部署で研修計画が設定されています。

ケアや課題を考えるにおいても各部署ごとに特性があるので、それぞれで研修を行っています。この度、総合施設ならではの全体研修の提案が施設長からあり10月に行うことになりました。私自身も施設外での研修に参加した際、他施設の

職員さんからの意見や見方を聞くと、新鮮で、大変参考になることが多いです。

また延寿内でも他部署職員との会話でも多く気づかされることがあります。今回の内容は「セーフティマネジメント（ご利用者の尊厳・自立支援に目を向けて、安全の確保に努めること）」です。大きなチャレンジですが、セーフティー委員会の監修した内容をもとに多くの意見や気付きが持てる研修にしたいと思います。



✿ デイセンター寿楽

子供たちとの交流

生活相談員 前山 照司

寿楽では少しでも地域の力になればと、4月より「こども110番の家」に登録をし、正面入り口に旗を設置しました。

「こども110番の家」に登録したのをきっかけに、もっと地域の方々と協力して何かできないかと考え、寿楽のすぐ近くにある「たんぼぼ保育園」の子供たちと交流できたら、ご利用者も子供たちもお互い喜んでもらえ良い刺激になるのではないかと思い、この5月より「たんぼぼ保育園」の子供たちとの交流会を毎月1回実施しています。

はじめは子供たちが馴染んでくれるか少し心配していましたが、少し緊張していたもののご利用者と一緒に歌を唄ったり手遊びをしたり、おやつを一緒に食べたりしているうちにだんだんと慣れてきてくれています。

8月の交流会では、何人かの子供たちが自分た

ちからご利用者の中に入っていきお話をしてくれていました。ご利用者の皆さんも子供たちと交流することで満面の笑顔を見せて下さり、交流会の日を楽しみにして下さっています。

これからも地域とのつながりを大切に、色々な事にチャレンジしていきたいと思っています。



笑顔で握手

✿ 老人総合施設あくなみ苑

経費削減の可視化

事務職員 清島 理知

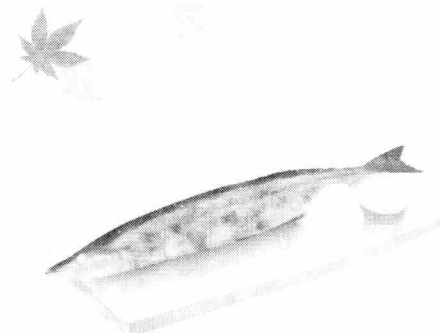
平成27年度の介護保険法改正により、介護保険収入が大幅にさがり、経営が厳しくなってきました。現時点では稼働率を上げ、支出を減らしていくしかありません。稼働率を上げると言っても、定員がある以上限界があります。そのため、支出の削減を中心に、前年度より取り組んでまいりました。

しかし、私一人が「経費削減！」と行動しても、施設全体で取り組まないと達成できません。そして、どれだけ削減したのか、わかりやすくしなければ、全職員へ伝える事は難しく、長続きもしません。

そこで全職員に関わりがあり、節約可能な科目を抜粋し目標額を設定。達成出来たかを金額とパーセンテージで表示し、担当者として、成果と課題についてのコメントを付けました。そのデー

タを社内ネットワークにて全職員が閲覧出来るようにしました。

最初は思い通りに削減が出来ませんでした。職員会議や運営会議にて経費削減への協力を依頼しました。その結果、大幅な削減が出来ました。今年度からは、収入についても、前年度と比較し、稼働率も掲示しております。職員一人一人が状況を理解し、行動することで安定した運営につなげる事が出来ると感じました。



梅寿荘居宅介護支援センター 日頃の業務で改めて感じること 介護支援専門員 山角由紀代

東日本大震災発生の記憶もまだ冷めぬまま、熊本県及び周辺地域に甚大な被害をもたらした熊本震災から早4か月が過ぎました。

特に様々な疾患を抱えたお年寄りや介護をされているご家族、避難所での生活に眠れない日々を送る子供達を思うと胸が熱くなりました。

私達の仕事内容は多岐にわたります。その中、災害時において行わなければならないことも重点

においておく必要があります。

昨年のポスター発表時に災害時の利用者台帳を作成し、発生時における避難場所や医療依存度の高い利用者、独り暮らしや重度の要介護状態の方の対応の仕方等を整理しました。しかしその後、気にはかけていますが日頃の業務に追われ、時間が経つにつれて忘れがちになってしまっています。

いつ起こりうるかもしれない災害に備えて、これからは日頃から準備し常に更新をし続け、いざという時に各事業所や地域との連携が取れるよう、意識しながら日頃の業務を続けて行かなければと再認識をしました。

デイセンター憩の家

ご家族、ご支援者との 関係づくり

主任生活相談員 友國 和之

デイセンター憩の家ではご利用者が快適にすごしていただけるように環境作りに努めています。

また日頃からご家族がどのような思いで介護にあたられているかを知ることが大切と感じています。

そんな中、機会を得て生駒市の介護者家族の会に出席させていただき皆様のお話の中から私自身、24時間介護されているご家族の思いを改めて

知る機会となりました。

デイセンター憩の家のご利用者家族も、きっと胸の中にしまい込んでいることがたくさんあるのだと感じました。

今年度は交流会をたくさん増やしました。その会にはすでに介護を終えられた方も参加されており、経験の中からアドバイスを頂いたりまた交流会ではなくても、個別にお話する機会を設けております。

奥深い介護で私たちにできることは小さいことですがご家族同士が認知症介護について共有することで支え励まし合える関係づくりの架け橋になることを目指します。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

総合事業が始まって

介護支援専門員 田中 英子

平成27年4月に介護保険法の改正がありました。高齢者の多様なニーズを地域全体で支えることを目的として総合事業が市の事業に位置付けられました。

生駒市では全国に先駆けてモデル事業（市町村介護予防強化推進事業）に取り組み、H27年10月から本格的に開始されました。ご利用者は要支援認定者と「基本チェックリスト」の実施により該当した事業対象者です。内容の一つにパワーアップPLUS教室があるのですが、集団・個別プログラムにより、筋力・持久力・バランス力等の

評価を行いながら、自宅での動作や環境のチェック、自主トレーニング提案して、自立支援を促します（基本3か月）。

ボランティアさんの励ましや、多く専門職の関わりの中で目標を持って期間を決めてする事で気持ち向上して元気になれる様子を目の当たりにしました。その他に包括の大事な業務の一つである相談受付件数も増えています。内容は認知症、精神疾患、虐待等個々によって対応が異なる事例で、ご本人やご家族自身も、どうしていいかわからず、長期展望のイメージ出来ないケースも多くあります。このような方々を総合事業のサービスでどう支援していくのか、今後の大きな課題になると思いますが、一つ一つ丁寧に対応していきたいと思っています。

児童施設 より 上半期報告

愛染寮

特別な一年

副主任 指導指導員 菅尾 明史
家庭支援専門相談員

今年は愛染寮創立70周年、宝山寺社会事業部創設70周年という特別な一年です。

記念行事も目白押しで4月には花祭り、8月は海への里帰りで宮古島に3泊4日であるなる会の皆さんも参加して実施しました。

今後11月12日には宝山寺にて記念の奉納太鼓があります。愛染寮児童の和太鼓クラブ「童笑」と愛染寮職員による「BARA—薔薇」の夢の競演があります。年明け1月にはレセプションと続きます。

広報誌「すず」ですが10年前に続き、この70周年でも記念号となっていますので是非ご一読下さい。70年の重みを感じつつ更なる10年に繋いでいくことが今居る職員の役割だと思っています。



奈良県発達障害支援センター でいあー

語る・聞く・知る

～おとなの発達障害の啓発イベントより～
相談員 中村 匡志

前号で触れた話題ですが、毎年4月は世界自閉症啓発デーと発達障害啓発週間に定められています。

今年度は身近に発達障害を知る機会を持つよう、生駒駅前での街頭イベントを皮切りに、県立図書情報館とイオンモール大和郡山での啓発展示とイベント（当事者・家族体験談等）を実施しました。本号ではイベントの一つ、おとなの発達障害の研修会について取り上げます。この研修の主役は当事者です。発達障害の特性（自分自身の得意な面、苦手な面）を勤務先に開示し、勤務先の理解・配慮を得て働く方や、就労支援事業所の訓練生を講師に招き、働く前から働いた後をテーマに、体験談報告の後、支援者からコメントを

いただきました。本人の語りは、当事者ならではの気づきや生きづらさ、支援を受けての変化、働き続ける良さなど、実際の体験や感じている「生」の声として、参加者全員の心に響きました。中でも印象的だったのは、働く上では作業よりも対人関係・マナー・ふるまい方で苦労するといった、本音を沢山聞きました。研修会後に、当事者同士の交流会も催しました。当事者グループのこと、苦労話、生活の工夫やアイデアなど、盛んに意見交換されました。

おとなの発達障害の支援は進んできましたが、一般社会における認知は道半ばです。でいあーもこの牽引役を担い、当事者にとって暮らしやすく、目標や希望を持てる社会づくりを目指していきたいと考えています。



おとなの発達障害について「はたらき・かたりあう」



こども支援センター あすなろ

「重い障がいのある人の 地域生活支援について」の 研修会に参加して

相談支援専門員 松井 公子

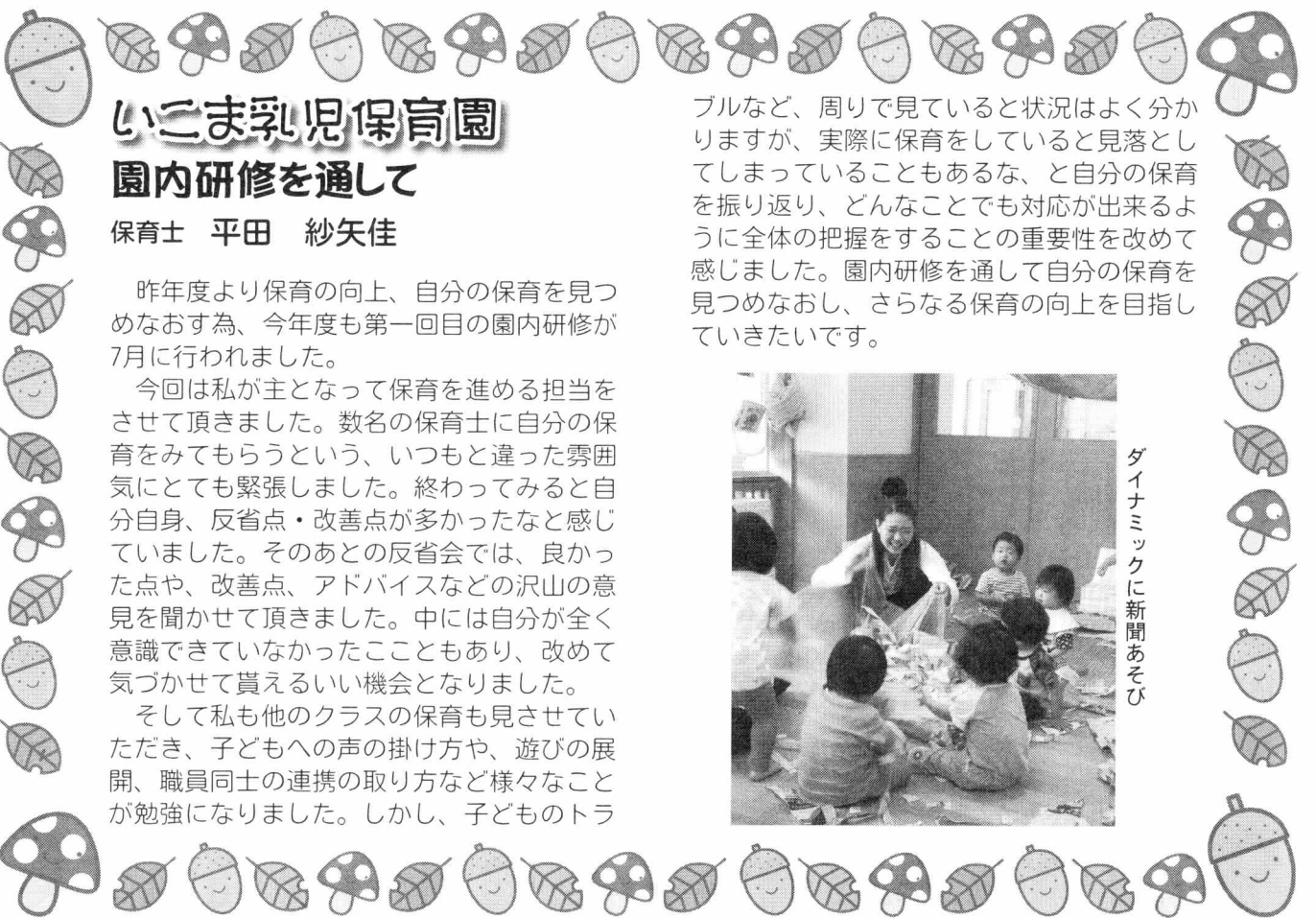
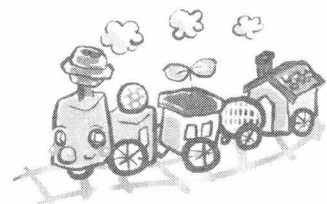
先日、「非常に重い障がいのある人達の地域生活支援」についての研修会に参加させて頂き、重度の障がいのある方の支援について勉強してきました。

医療ケアが必要な子どもが在宅医療に移行するにあたり問題になってくるのは、重症児を診てくれる身近な診療所・訪問医療やサービス・医療ケア児を受け入れてくれる通所事業所が少ないことで、このことが家族の大きな介護負担になっています。重度の障がいがあっても地域で安心して過ごせるようになるには、行政・医療・福祉が連携を取りながら家族全体を支えていくことが大切であると

繰り返し話されていました。そして相談支援専門員はそのチームをつなく大切な役割を担っているという言葉に身の引き締まる思いでした。

生駒市でも昨年度から重度心身障がい児支援についての勉強会を自立支援協議会主催で行っており、関係機関の顔の見える関係作りとより良い支援・切れ目のない支援に力を入れています。

また、あすなろでも医療ケアが必要な児を対象に、家庭ではできない遊びを経験してもらったり保護者の情報交換や交流の場としてサロンを開催しています。今回の研修で学ばせて頂いたことを活かし、より良い支援につなげられるよう努力していきたいと思えます。



いこま乳児保育園 園内研修を通して

保育士 平田 紗矢佳

昨年度より保育の向上、自分の保育を見つめなおす為、今年度も第一回目の園内研修が7月に行われました。

今回は私が主となって保育を進める担当をさせて頂きました。数名の保育士に自分の保育をみてもらうという、いつもと違った雰囲気にとっても緊張しました。終わってみると自分自身、反省点・改善点が多かったなと感じていました。そのあとの反省会では、良かった点や、改善点、アドバイスなどの沢山の意見を聞かせて頂きました。中には自分が全く意識できていなかったこともあり、改めて気づかせて貰えるいい機会となりました。

そして私も他のクラスの保育も見させていただき、子どもへの声の掛け方や、遊びの展開、職員同士の連携の取り方など様々なことが勉強になりました。しかし、子どものトラ

ブルなど、周りで見ていると状況はよく分かりますが、実際に保育をしていると見落としをしていることもあるな、と自分の保育を振り返り、どんなことでも対応が出来るように全体の把握をすることの重要性を改めて感じました。園内研修を通して自分の保育を見つめなおし、さらなる保育の向上を目指していきたいです。



ダイナミックに新聞あそび

極楽坊保育園

耐震工事と保育

保育士 前田 紀美子

昨年度から検討、申請していた極楽坊保育園の耐震工事がいよいよ始まることになりました。

乳児棟への渡り廊下を架け替えるなど大工事で、各保育室の引っ越しとなりました。幸い隣接する幼稚園に4、5歳児の保育室を間借することが出来たのは不幸中の幸いだったと思います。

いざ、その日を迎えるとなると幼児の保育室を乳児が安心して過せるようにするのはもちろんのこと、保護者の動線にまで気を配り未だに改善点はないかと思案中です。4、5歳児も幼稚園に間借りすることになったものの、保護者の負担を減らす意味で毎朝保育園に登園してから、の様にお祈りの後通園、給食時にまた帰園して……を8月いっぱいがんばりました。園に帰ってきて固定の保育室は確保しにくかったのですが、保護者からは「毎日子どもたちはワクワクして、こんなことがあったよと目を輝かせて話してくれ

ます。先生たちは大変ですよ。」とねぎらいの言葉までいただいて日々の疲れも吹き飛び、明日への活力にしていました。

年度途中での引っ越しは、試行錯誤の連続です。しかし、マイナスな事ばかりではありません。担任間の絆が強まり、工夫する保育を若い保育士たちが目の当たりにして学んでいく場にもなっています。

9月からは本格的に解体作業が行われ、予想を超えるような音に悩まされそうです。幼稚園での一日保育も始まります。今まで以上に連携をとり、このピンチを新しい保育の形づくりにとらえ、チャンスに変えられるよう気持ちを高めていきたいと思います。



飛鳥幼稚園のプールで、
いっぱい遊びました！

いこま乳児院

第三者評価を受審して

主任看護師 関口 直見

8月9～10日、二度目となる第三者評価を受審しました。

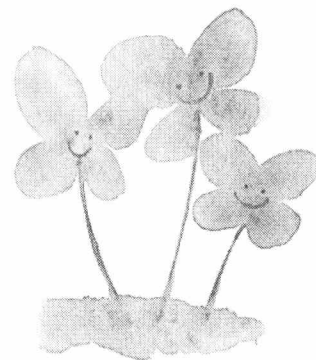
乳児院では、「絶え間ないケアの質の向上」を目指すため、平成24年度から3年に一度、第三者評価を受けることが義務づけられました。受審しない年度は、自己評価をする事になっています。

施設運営に関する項目が45項目、養育支援に関する項目が22項目、計67項目の評価項目について施設全員で事前に自己評価をし、受審当日に第三者評価機関の方が、施設見学や書類等で確認されて評価して頂くシステムになっています。

私自身、主任として初めての受審で緊張して臨みました。評価者からは、良い事については更に良くする為の、出来ていない所はど

うすれば良くなるかを丁寧にアドバイスして頂き、スーパーバイズを受けているように感じました。

今回の評価結果を基に、子どもたちにとってより良い養育が出来る様、努めていきたいと思っています。(評価結果は、全国社会福祉協議会のホームページに掲載されます。)



いこま保育園

奈良県認定 保育士研修に参加して

保育士 森川 清子

この度、認定保育士Grade 3 研修に参加させていただきました。

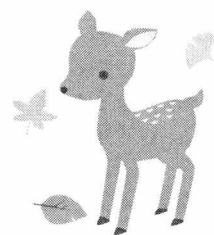
本研修は15年以上の保育士経験が参加資格となり、研修の目的は「主任保育士を補佐し、保育所における問題解決に主体的に取り組むリーダー的役割」の育成とされています。全10回のうちこれまで3回受講させていただきました。

研修プログラムの大半は個人演習、グループ演習となっており、それぞれの与えられた課題に取り組んだり、グループで話し合いまとめたりと、聞いて学ぶだけではなく、他の意見を聞いたり、自身の考えを積極的に伝えたりすることを主に行っています。また、研修の中で、「保育士の質の向上」ということ

が常に述べられています。

これまでの経験をいかしながらの演習ではありますが、学ぶことが多くあり、今後も日々努力し学びを深めていきたいと思っています。2018年には保育指針が改定され、保育の制度や流れが大きく変わっていきます。これまで以上「保育の質の向上」「保護者支援」など一層力を入れて取り組むべきこととなります。

今後も、研修のねらいである「自らの目標・理想像を明確にし、仕事に対するモチベーションの向上」を果たし、学びが実践でいかしていけるよう残りの研修に取り組んでまいりたいと思っています。



あすかの保育園

みんな笑顔で

保育士 内田 妙子

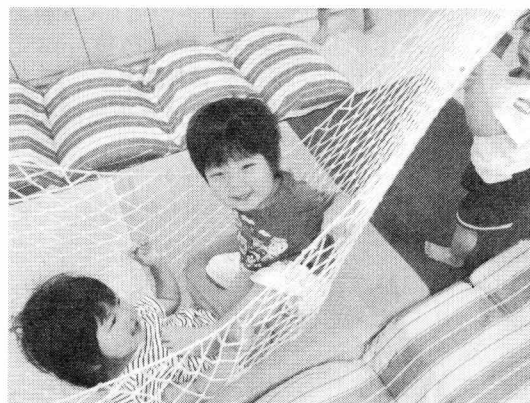
今年度は1歳児クラスの担任になりました。久しぶりの1歳児です。4月は新入園児の泣き声が1日中響いていました。保育士に、優しく抱っこやおんぶをされても泣いている子どもたち。その泣き顔を見ながら「あすかの保育園にようこそ！これから楽しいことがいっぱい待ってるよ！」と伝えました。

私が保育士として大切にしていることは、「自己肯定感を育てること」です。これはあすかの保育園で学びました。「失敗してもいい」「そのままのあなたが素敵よ。」と、様々な葛藤を経験していく子どもに伝えたい事です。

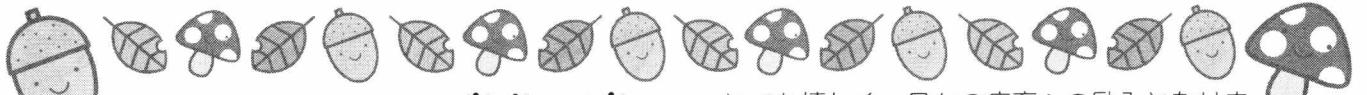
昨年度は5歳児クラスを受け持ちました。何かを教え込んだり、すぐに注意して指導したりするのではなく、子ども達と対等な関係で一緒に考え合いました。心の根っこをしっかりと太らせて、信頼し合える仲間と共に笑顔で卒園を迎えてくれたのではないかと思います。

ています。

1歳児クラスは自我が芽生える大切な時期です。大人との信頼関係を結び、友だちの存在に気づいていきます。人生の土台を作る素晴らしい仕事であることを誇りに思い、子ども達がどんな仲間を作り、どんな大人になっていくのかを楽しみにしながら、子どもたちの姿を丸ごと受け止め、共感し、寄り添っていききたいと思います。



ゆらゆら たのしい～！



児童発達支援事業 ばんび

夏のビッグイベント

児童指導員 山口 千佳

ばんびといっぼは交流保育を年に2回行ない、子どもたちが一緒に遊び、ふれあう機会を設けています。そして今年は「いっぼ・ばんび合同夏祭り」を開催することになりました。行事を合同で計画するのは初めてのことです。約2か月前から話し合いを始め、準備を進めました。そして迎えた当日はお天気にも恵まれ絶好のお祭り日和。

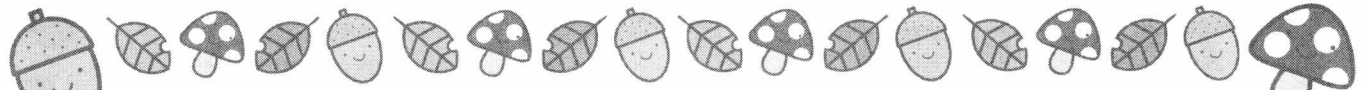
ばんびといっぼで合わせて42組のご家族にご参加頂きました。ばんび職員によるオープニングから始まり、スーパーボールすくい、あて物、うちわ製作等のコーナー遊びを回って楽しんで頂き、最後は皆で盆踊りを踊って締めくくりました。子どもたちはご家族の方と一緒に元気いっばい踊り、笑顔もいっばいの時間を過ごせました。

子どもたちやご家族の方々の笑顔を見ると

とても嬉しく、日々の療育への励みとなりました。また、今回のように合同で行事を行ない、子どもたちとご家族の方々が大勢集まり賑やかな時間を一緒に過ごすことが出来たのは、施設のつながりがあってこそだと思いました。これからもそのつながりを活かして交流の機会を作っていきたいです。



忍たま盆踊りで大盛り上がり！



児童発達支援 いっぼ

夏を終えて

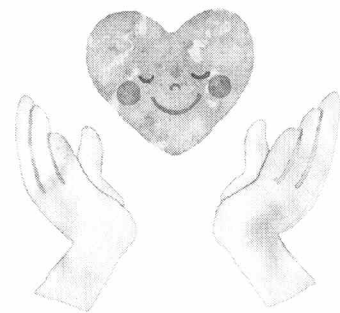
保育士 大島 友美

いっぼの隣の公園からひぐらしの音が聞える季節になりました。毎年思う事ですが、今年度もやっぱりここまでアツという間でした。今年度のいっぼは、親子教室「はぐはぐ」から利用に繋がったお友達も迎えて、賑やかなスタートとなりました。4月当初は環境の変化に不安そうだった子ども達も少しずつ落ち着き、今では「おはよう！」「こんにちは！」と笑顔でドアを開けて登園してくれるようになりました。季節の良い時期の散歩や、のりやはさみを使った製作、音楽遊び、プールや寒天遊び、恒例となった並行クラスでのお買い物体験等、子ども達は毎回目をキラキラさせながら、最高の笑顔で取り組んでくれて、大変賑やかに毎日を過ごしています。

夏の間は、ばんびとの合同夏祭りやキッズプラザ大阪への遠足、和太鼓体験とこれまた

夏のイベントも盛り沢山でしたが夏の暑さ疲れもどこへやら、子どもたちのキラキラ笑顔パワーで余すところなく暑い夏を楽しみました。

秋以降のいっぼも、もちろん楽しい事が目白押しです。子ども達も、そして職員もこれから来る「食欲の秋」でまずはたっぷり腹ごしらえをし、しっかり体力をつけて、いっぼでの毎日を大切にしながら、楽しんでいきたいと思ひます。



児童発達支援センター 仔鹿園 “バナナくんたいそう” はじめました

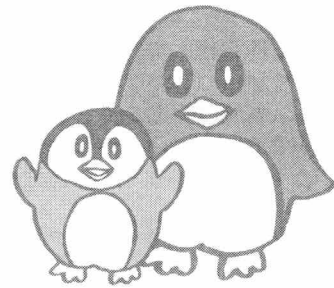
保育士 辻 真弘

4月から新しいクラスがスタートし、夏のイベント夏祭りも終わり、あっという間に秋の大イベントの運動会です。今年度運動会の係になり、ここ数年運動会で行う体操がずっと同じ「ミックスジュース体操」だったので今年度は変える事にしました。それが「バナナくんたいそう」です。7月からプールが始まり、プールに入る前には「バナナくんたいそう」を行います。

新しい事を始めるのには勇気がいります。見たことのない体操に子どもたちもはじめは固まってしまい、「ちょっと難しかったかな…」と後悔しかけていましたが、少しずつ真似をして身体を動かす子どもたちの姿がみられるようになりました。歌を口ずさんだり、曲が流れるとニコッと笑ってくれる子どももいます。

毎日の積み重ねは子どもたちの経験値。また、一つ子どもたちから学びます。一步踏み出す事は勇気がいり不安もありますが私は子どもたちにもっともっといろいろな経験を積んでほしいと思います。そんな私も今年度初めてクラスチーフになりました。

まだまだ不安はありますが一步一步前に進みながらこれからも子どもたちと一緒にたのしい！うれしい！を増やしていきたいです。



平城児童センター

ペットボトルでピザを作ろう!!

センター長 徂徠 おさむ

小学生のサークルは、普段は子どもたちだけの活動ですが、1年に1回親子での活動を行っています。昨年までは創作活動…段ボールクラフトでゾウ、キリンなどを製作していましたが今年度はペットボトルでピザ作りに挑戦しました。

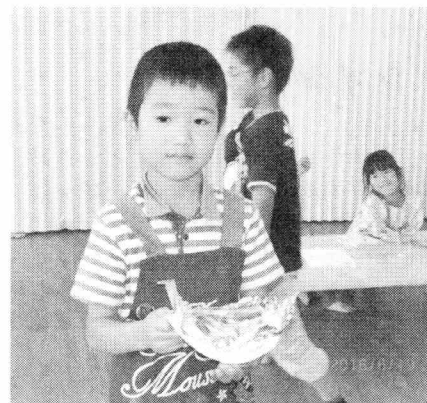
生地の作り方を説明して取りかかりました。工程は①材料をペットボトルに入れて10分間振る ②タオルでくるんで30分間おなかに入れてあつため発酵させる ③生地を取り出す ④生地を丸い形にする ⑤生地に穴をあけるという順番で行いました。

実際に作ってみると材料を全てペットボトルに入れ上下左右に十分間音楽に合わせて振ると、タオルでしっかりとくるんで30分間くらいおなかの中で温めるのが思いのほか大変でした。ふたを開けて生地を取り出す時に大きな音がしたのは驚かされました。生地

ができあがるとピーマン、ウィンナー、チーズなどを思い思いにトッピングしました。

親子の取組みの状況は、親子が協力して作る、子どもが解らなければ必ず質問させる、親が率先して作るなど様々でした。

焼くのに少し時間はかかりましたが試食し、皆さんに好評でした。ピザ作りは「どろんこの森」のサークルでも行い楽しんでいただきました。



上手くできました

各施設で活躍されているボランティアさんをご紹介します。 Vol.2

いこま保育園 似顔絵ボランティア活動
似らっくすクラブ 山田 武さん

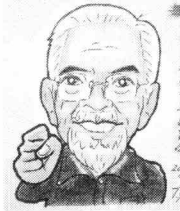
— 似顔絵がとりもつ「絆」 —

いこま保育園と滝寺で1年に1回、似顔絵のボランティアをさせて戴いています。

いこま保育園では私の孫がお世話になっていた2008年の1月の作品展で園児の似顔絵を描かせて戴いたのが始まりです。似顔絵の対象は乳児から年長さんと、さらに卒園したお兄ちゃんやお姉ちゃんです。

今年は例年より2カ月前倒しのH27年11月28日(土)の開催となり、描き手の参加がいつもより4人少ない5人となりましたが、頑張って43人の園児の笑顔を描きました。

作品展では先生方に似顔絵コーナーの教室の準備や似顔絵の受付をしていただき、さらにお昼は家庭の味のするカ



レーライスをごちそうになるなどたいへんお世話になりました。

「似らっくすクラブ」は似顔絵同好の仲間の集いで、大阪、兵庫、京都、奈良の在住者です。描いて楽しく、描かれて嬉しい、みんなに喜んでもらえる似顔絵を目指しています。似顔絵ボランティアの報酬は描き上げた色紙に注がれる”笑顔”です。これからも似顔絵を絆とし、一期一会を大切に活動して参ります。

◎11月には大阪で「第3回エコロジー似顔絵グループ展」を開きます。

(11月14日～18日、JR桜ノ宮駅下車、源八橋西詰 森林管理局内「森のギャラリー」)



デイセンター寿楽

手話サークルカンナ 日野紀代子さん

「ご縁をいただいて」

私達は、耳の不自由な人達のコミュニケーション手段の一つである手話を学習しているボランティアグループです。

9年前、当時の施設長さんから「寿楽へ来て、手話で何かしてもらえませんか。」と声

がかかり、「私達で出来る事があるなら喜んで!」とお受けし、毎月第4金曜日、当日参加出来る者、数名でお伺いし、今に至っています。メンバーには、自称、吉永小百合・山本富士子がいいます?? 「出し物」は毎回参加者で相談し、手話コーラス・体操・ゲーム等、全員で出来る様に工夫しています。初めの頃は随分緊張していましたが、今ではすっかり皆様と仲良しです。

寿楽名物「豪華で美味しい昼食」をご一緒にさせても頂きました。部屋には「歓迎・手話サークルカンナ」の看板が上がり、拍手と歓声で温かく迎えて下さいます。私達の拙い「出し物」に笑顔で「楽しかった。」と喜んで下さいます。帰り際には「また来てね。待ってるよ。身体に気をつけてね。」とお声がかかり、お一人おひとり握手してお別れです。

ご利用者から教わる事が多く、皆様の笑顔に私達が喜びと安らぎを頂き、またお会いしたいと思わせて下さる寿楽のご利用者、職員の皆様、有難うございます。

極楽坊保育園

ボランティア 高橋成男さん

お話アニメーション

私は現在 年中クラス、年長クラスで毎月一回ずつ「お話アニメーション」と称するやり方を実施しています。ある日の年中クラスです。子らもよく知っている「桃太郎」を基にして、子らとやりとりをして最後の段階です。

私:「桃太郎は強いね。このお話の最後はどうなるんだっけ?」子らは競って私に言ってくれます。「桃太郎は鬼を退治して宝物を車に積んで、お爺さん、おばあさんの待つお家へ帰っていくんだよ。」

私:「あっ、そうだったね。では、みんなで車に宝物を積んで、引いて帰るところをやろうよ。」

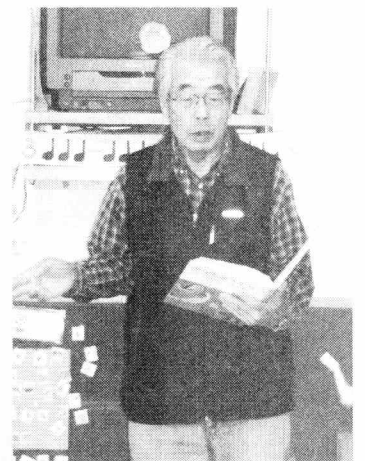
子ら:「やろう! やろう!」みんなで車を引っ張る動作をして、エンヤコラ、エンヤコラのかけ声をします。

私:「お爺さん、おばあさんはとても喜んで、それからは楽

しく幸せに暮らしました。めでたし、メデタシ、子らは皆が満足そうな笑顔を見せてくれます。

私のやり方は、こちらからの一方的な話ではなく、子らとの共同作業で物語を完成させていくものです。その際 子らとの共同アクションも大切です。

スペインで開発された「読書のためのアニメーション」を応用した私の「お話アニメーション」では、子らの魂を生き生きさせ、子らを活性化させる目的で進行させるものです私はこれからもこの「お話アニメーション」で、子らと楽しんでいきたいと思っています。



振り返ると10年前に子育て
と作家業とサラリーマンの両立を目指すべく大阪脱出計画を企てていた。真夏の灼熱地獄から生駒トンネルを抜けた時、直感的にここに住むのだと感じ迷うことなく移住を決定。

いつも都会のコンクリートジャングルからは遠くに生駒山を眺めていたが、頂は見えず、木を見て森を見ず”のごときロケーションの新天地、木々に囲まれた生駒山の麓は何もかもが新鮮であった。し

自治会活動と 宝山寺福祉事業団とのつながり

生駒市元町2丁目自治会 副会長 志村 高弘

かし何から始めればよいか迷いつつも取り敢えず落ち葉掃除をすることから始めたように覚えている。

ちょうど移住したその2007年は元町自治会が1丁目と2丁目それぞれ独立した組織として歩み始めた年であった。その年の秋に滝寺キャンプ場での元町2丁目自治会発足記念行事に新参者として参加したことはとても印象に残っており、そのイベントが自治会、宝山寺福祉事業団の両組織との最初の出会いでも

あった。

それから暫くしての事、終わることのない落ち葉との格闘中の姿を目撃されたのか、自治会幹部には箒を持って山の掃除をしている慈善活動家に映っていたのであろう。間もなく自治会中枢に取り込まれた。

かつて大阪のマンション生活では狭いエントランスでパイプ椅子を並べた自治会の会合もろくに出席したこともなく他人事のようにしか捉えていなかったあの頃から10年近

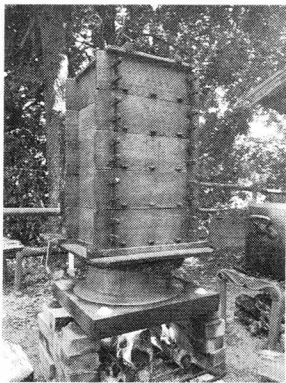
に位置する生駒市は、すなわち高齢者も暮らしやすいということであり、その背景には宝山寺福祉事業団の担うところの影響は大きいと感じる。

また当自治会は150世帯ほどの規模であるが、その福祉事業団が自治会に協力いただいていることは非常に心強く「感謝」の言葉に尽きる。

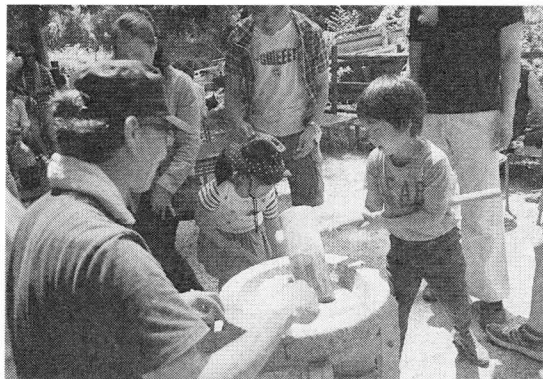
ここ数年来地球規模での環境問題に対し自治会としての災害時への取り組みは地域住民の最も近い所にある対策であり、また行政からも協力を

くが過ぎ、いま現在この地域との関わり合いに無意識のまま必然性を以って臨んでいる。

関西で住みやすい町の上位



春の親睦会



求められている部分でもある。自主防災会にて災害時の対応はマニュアル化され、また定期的な訓練の実施も開催されているが、災害は都合よく起こるものではなく、また咄嗟に対応できるものでもないであろう。

いざという時地域住民が助け合える関係は日頃から如何に顔をあわせお互いを知るかが大切と感じる。これらを念頭に、自治会では集いの場として春と秋に開催する親睦会、夏は「いこまんどこまつり」への模擬店出店、また「憩の家」では当自治会内在住の諸先生方による書道、詩吟、俳句教室等々を開催しており恒例化しつつある。

これも福祉事業団の協力が不可欠であるが、とりわけ滝寺キャンプ場は親睦会の企画を遂行するための立地や設備



彫金教室の様子



等の条件が揃い、沢山の方に参加いただけ、老若男女が充実したひと時の共有を実現してくれている。

更にこのイベントには参加者各々が自主的に役割を持っていたため、自ずと「誰が何が得意か」が参加者全員が目により共通認識される。これこそリアリティある災害への備えといえるのではない。

またイベント運営については生駒市家庭ごみ有料化に合わせ自治会で始めた資源ゴミ回収での収益金半分を積み立て充当、残りを毎月会員全世界への指定ゴミ袋で還元しており、自治会員の協力による循環型自治会の上に成立している。

多少欲張り気味ではあるが今後「縁」や「絆」を大切にしていきたい。

topics of the day

楽ラクひめゆりジム

こんにちは！在宅介護支援センターです。
 “いつまでも若々しくあるために！楽しくラクに運動しませんか”をキャッチフレーズに介護サービスを受ける程でもないが体力の低下が気になる方、ハンディキャップはあるけれど今の体力を維持したい方、また認知症予防に感心のある方々に向けて、この度「楽ラクひめゆりジム」を始めました。

内容は運動機器の使用、セラバンドを使った筋トレ、笑って認知症予防運動、等々です。

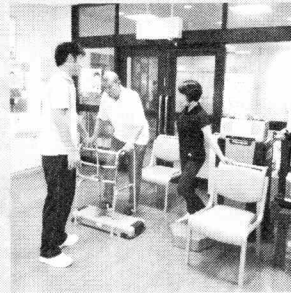
スタッフは理学療法士、作業療法士、介護予防トレーナー、生活相談員です。

今のところ体力に不安はありませんという方も始めるのに決して早すぎることはありません。『転ばぬ先の杖』と参加された方の言葉です。

毎月、第2、第4日曜日
 14:00～16:00 【送迎あり】
 費用は一回 500円

関心のある方、まずは連絡をください。

☎ 74 - 6811 (森本)



ピックアップ歩行器を使って無理なく運動



運動機器をたくさん揃えています



セラバンドを使って筋力アップ



全員集合！

第15回	平成28年10月28日 担当：梅寿荘
テーマ	「災害時の必要知識」 ～福祉避難所を知っていますか？～
第16回	平成28年11月25日 担当：延寿
テーマ	「こんなにもあった！」 ～老人施設の種類について～
第17回	平成29年1月27日 担当：梅寿荘
テーマ	「高齢者を感染症から守るために」
第18回	平成29年2月24日 担当：延寿
テーマ	「大発見!福祉用具」～正しい選び方～
第19回	平成29年3月24日 担当：あくなみ
テーマ	「栄養学入門」～元気に老いる食生活～

※いずれも総合支援センターあずさにて
 午後2時から1時間程度

「ひめゆり講座」
 好評開催中!!

「私たち法人職員の持っている力を、何か地域で役立てることはできないだろうか。」公開講座という形で実現したのが「ひめゆり講座」です。平成27年7月から始めたこの講座は、毎月第4金曜日の午後2時に定期開催しています。(12月のみお休み)
 講座内容は一回ごとに独立しており、様々なテーマを扱っています。介護保険制度のこと、認知症のこと、食事栄養のことなど、講師を務める法人職員が日ごろ関わっている、高齢者部門の専門分野について分かりやすくお話するのが特徴となっています。10月からは次のとおりの予定がありますので、お誘い合わせの上どうぞご参加ください。

第20回 宝山寺福祉事業団 職員研究発表会のお知らせ

平成28年度の職員研究発表会は法人児童施設を代表して以下の3施設が発表致します。

研究発表会も回を重ねて20回となりました。これまでも福祉事業をより良い形で施設を利用される皆様にまた、地域の方々に提供できるよう努力をして参りました。

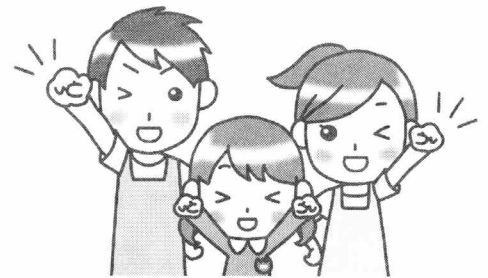
法人創設70周年となる今年度、法人に大きく関わりのある元興寺の近くで研究発表会を開催致します。

日時 平成29年1月29日(日)
開場：12時15分 開会：12時45分

場所 ならまちセンター
奈良市東寺林町38番地
近鉄奈良駅徒歩10分

発表施設

- 発表1 極楽坊保育園
「運動好きの子どもを育てるために」
～楽しく運動ができる環境づくりについて～
- 発表2 児童発達支援センター 仔鹿園
「子育て力を高める」
～ポータルプログラムの活用～
- 発表3 児童発達支援センター あすなろ
「児童発達支援の中で社会性を育てる遊び」
～保育計画プロジェクト6年の歩み～



ポスターセッション 各施設が今年度取り組んでおります事をポスターにてご覧いただきます

講評 帝塚山大学 心理福祉学部地域福祉学科 才村 眞理 教授

基調講演

「菩薩の道」 元興寺 住職 辻村 泰善 師

【お問い合わせ先】

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団事務局 URL : <http://hozanji-wel.org/>
TEL 0743-74-1172 FAX 0743-74-1911 〒630-0257 生駒市元町2丁目14番8号

編集後記

ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピック、パラリンピックに夢中になって皆様、寝不足気味だったのではないのでしょうか？日本は陸上の400メートルリレーで銀メダルを獲得するという歴史的な快挙を成し遂げました。4人の信頼関係が築き上げたチームプレーの賜です。選手の皆様、たくさんの感動をありがとう！4年後の東京五輪にますます期待が膨らんだ今年の夏でした。(森本)

宝山寺福祉事業団 愛染寮

70周年記念事業

奉納太鼓

日時:平成 28 年 11 月 12 日(土)

9:30~11:30

法要・奉納太鼓・野点

※どなたでもご覧いただけます

和太鼓クラブ

童笑

場所:宝山寺金剛殿前駐車場
(第一駐車場)

魂源堂太鼓道場

職員和太鼓団

BARA-薔薇

主催:宝山寺福祉事業団 愛染寮

0743-74-1172

